

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 18 日現在

機関番号：14701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04936

研究課題名(和文) 発達障害のある子どもの不登校等二次障害に対応し予防する支援体制に関する実証的研究

研究課題名(英文) Empirical Study on Support System for Preventing Secondary Disabilities such as School Refusal of Children with Developmental Disabilities

研究代表者

武田 鉄郎 (Takeda, Tetsuro)

和歌山大学・教育学部・教授

研究者番号：50280574

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：発達障害のある子どもが不登校等の二次障害に対応し、予防する支援体制を構築することを目的とした実証的研究である。病弱特別支援学校の高等部、中学部の入院している生徒のストレスコーピングの実態を明らかにした。腕時計型小型高感度加速度センサー(マイクロミニ型アクティブグラフ)を用いて行動記録をとり、覚醒時や睡眠時における身体活動量など生理学的にその実態を明らかにした。また、日本の学校等の支援体制に影響すると考えられるベトナムハノイ市の私立特殊教育センターの実態を論文にまとめると共に、2冊の「発達障害のある子どもの二次障害予防のための学級・学校支援ガイドブック」をホームページから閲覧できるようにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

不登校は、我が国が抱える大きな教育の問題である。不登校、ひきこもりの4分の1が発達障害と診断されていることが明らかにされている。しかし、発達障害のある子どもの不登校等の二次障害への具体的な対応策に関する研究は未だ不十分である。この視点から、子どもたちのストレス対処、情緒や行動の包括的なアセスメントやトラウマ症状の実態、マイクロミニ型アクティブグラフを用いて行動記録をとり、覚醒時や睡眠時、授業中における身体活動量など生理学的な実態や支援体制を明らかにし、保護者や小中学校等教員に向けた二次障害の予防に関する情報提供を行うことは社会的に意義のあることである。

研究成果の概要(英文)：Purpose of this research is empirical research to build support system for children with developmental disabilities to prevent secondary disabilities such as school refusal. We clarified the actual condition of stress coping for hospitalized students with secondary disabilities in lower secondary and upper secondary departments of special support schools for health impairments. In addition, Behavioral records were obtained using a micro-mini type active graph, and the actual state was physiologically clarified such as the amount of physical activity during class. We also wrote an academic paper on the actual situation of a private special education center in Hanoi, Vietnam, which is thought to affect the support system for Japanese schools. And, we have written two "Class and School Support Guidebook for Secondary Disorder Prevention for Children with Developmental Disabilities" and made it available on our website.

研究分野：特別支援教育

キーワード：発達障害 不登校 二次障害 予防 A S E B A マイクロミニ型アクティブグラフ ベトナムの私立特殊教育センター

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

奥野ら(2000)が行った厚生労働省科学研究調査研究では、ADHD の児童生徒については、心身症合併率が 57.7%、不登校の併発率が中学生では 39.8%であった。また、齊藤(2011)は、不登校・ひきこもりの 4 人に一人が発達障害であることを報告している。武田(2017)の報告では、病弱特別支援学校中学部、高等部在籍生徒(2017 人)のうち 37.8%の生徒が不登校等の適応障害で、そのうちの 72.7%が発達障害の診断があった。中学部においては、2002 年には全体の 6.1%だったものが 2005 年には 10.9%と 1.8 倍に、さらに 2012 年には 27.2%となり、10 年間で 4.5 倍に増加している。高学部においては、2002 年には全体の 2.3%だったものが 2005 年は 3 倍の 7.0%に、2012 年には 12 倍の 27.7%に急増している。数年間のうちに、発達障害で二次障害を併発し入院・治療等のために病弱特別支援学校に在籍する生徒が増加していることが明らかにされた。このような現状に対して、発達障害のある児童生徒の不登校等の二次障害についての具体的な対応策については未だ研究は不十分である。

2. 研究の目的

発達障害の二次障害により不登校状態になり、心身症や適応障害等の診断を受け、小児科、児童精神科に入院・通院し、病弱特別支援学校に在籍する児童生徒を対象に、不登校等の二次障害の経験を持つ児童生徒を対象に、「ASEBA による情緒や行動の包括的なアセスメントやトラウマ症状やストレス対処に関する質問紙等を使用して多面的に情緒や行動を評価・分析し、心理行動特性を明らかにする」と共に、「保護者や小中学校等教員に向けた二次障害の予防に関する情報提供を行う」など支援の在り方について実証的に検討することを目的とする。

3. 研究の方法

病弱特別支援学校在籍の不登校等の生徒へのアンケートによるストレス対処に関する調査、ASEBA 等のアセスメントによる事例研究、子どもの身体活動量と授業雰囲気尺度の評価の分析、保護者等へのインタビューの質的分析等から得た研究成果を、二次障害への対応と予防に関する情報としてインターネットで発信した。また、ベトナムハノイ市の特殊教育センター等の支援体制モデルに関する情報収集と実証的研究を進めた。

4. 研究成果

(1) 病弱特別支援学校在籍の不登校等の生徒のストレス対処に関する調査

病院併設の病弱特別支援学校中学部、高等部の生徒 28 名と高等学校(以下、比較群とする)に在籍する生徒 104 名を対象に、岡安孝弘ら(1999)、三浦(2002)の尺度を参考に、最近のストレス状況、コーピングの実態、ソーシャルサポートの実態、不登校経験の有無などの調査を行った。その結果、病弱特別支援学校の生徒で、心身症や不安障害等の診断がある生徒は 16 名(57.2%)、診断がない生徒は 9 名(32.1%)、無記入は 3 名(10.7%)であった。またその背景として発達障害に関する診断がある生徒は 16 名(57.1%)、診断がない生徒は 11 名(39.3%)、無記名 1 名(3.6%)であった。不登校経験のある生徒は 20 名(71.4%)、不登校経験のない生徒は 5 名(17.9%)、無記入 3 名(10.7%)であった。

病弱特別支援学校では、特に「抑うつ・不安」は「不機嫌・怒り」($r=.778$)との間に強い正の相関がみられた。また「身体的症状」は「抑うつ・不安」($r=.617$)、「不機嫌・怒り」($r=.410$)、「不機嫌・怒り」は「無力感」($r=.453$)との間に中程度の正の相関関係がみられた。病弱特別支援学校の生徒は「抑うつ・不安」と「不機嫌・怒り」との間に強い相関関係が見出され、不安が高まると、すぐに不機嫌・怒りにつながることが推測された。また「身体的症状」は「抑うつ・不安」「不機嫌・怒り」と「不機嫌・怒り」は「無力感」との関係性がみられ、「抑うつ・不安」

「不機嫌・怒り」が高くなれば頭痛等の身体症状も強くなる、「無力感」が高くなれば怒りなどの「不機嫌・怒り」が高くなる関係性が見出された。比較群の生徒よりも「抑うつ・不安」と「不機嫌・怒り」との関連性が強く、いわゆる不安になるとパニックを起こしたり、攻撃性が強くなったりする、いわゆる「即キレる」という状態にあることが明らかにされた。

また、ストレス対処過程において、認知的評価はストレスへの脅威性や、対処可能かどうかコーピングに関する評価をする過程である。その認知的評価において比較群の生徒は「影響性（一次的評価）」は「身体的症状」「抑うつ・不安」「不機嫌・怒り」「無力感」の全てのストレス反応を喚起し、「コントロール可能性（二次的評価）」は「身体的症状」「抑うつ・不安」を軽減することが明らかにされた。しかし、児童精神科等に入院中の病弱特別支援学校の生徒は、認知的評価過程の「影響性」と「コントロール可能性」においてストレス反応との相関はみられなかった。このことは、ストレスを経験したとき、それがどれほど自分に影響があるかが理解できず、そしてどう対処できるかという認知的評価の二次的評価においても「あきらめている」と推測できる。そのためにストレスが認知的評価の一次的評価で「大変だ、困った」と捉えても二次的評価で「何とかできる」「問題解決できる」とは捉えることができず、「どうすることもできない」「あきらめる」という評価を行うために、消極的対処行動を取る場合が多く、ストレス反応、すなわち「不機嫌・怒り」「抑うつ・不安」「無力感」「身体的症状」に直接的に作用していると考えられる。これらのことから、心身症等の医療的ニーズのある生徒へのストレス対処において、認知的評価の二次的評価であきらめにくい、コントロール可能感を高めるための支援が重要となる。成功体験の積み重ねなどを経験させることにより自己効力感や自尊感情を高めていく必要があると考える。

(2) 子どもの身体活動量と授業雰囲気尺度の評価の分析を通して

対象児の実態

対象児:A 児は7歳で男児である。A 児は、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害 (ADHD) 学習障害 (LD) の診断を受けている。多動や衝動性が目立ち、授業に集中することが難しく、教室を徘徊することが多い。また、授業中、授業と関係なく、絵本を読んだり、ゲームをしたりしている。

学校生活におけるアクティグラフの測定

時計型のアクティグラフを A 児に装着し測定した。ビデオにより授業中の行動を撮影し、のちに授業雰囲気尺度を用いた授業分析を行った。また、アクティグラフの測定結果についてさらにアクティブファーストを用いて分析を行った。アクティブファーストとは疲労解析プログラムであり米国において国家プロジェクトとして研究されたものである。

行動観察と授業雰囲気との関係

授業分析には、岸 (2009) らが作成した授業雰囲気尺度を用いた。この尺度は、【統制的雰囲気】【自由・積極的雰囲気】【喧噪的雰囲気】から構成されている。「統制的雰囲気」とは、教師の行動や発言が「～しなさい」といった命令口調が多いなど威圧的な雰囲気である。「自由・積極的雰囲気」とは、子ども達の表情や発言に即した授業展開を行っていたり、子どもたちの意見や発問に共感的であったりすること、間違った答えをしても責めないなどの雰囲気である。また、「喧噪的雰囲気」とはさわがしい、落ち着きがないなどの雰囲気である。

結果

Fig.1 は A 児の学校での一日における身体的活動量を示した。定型発達の場合の1分間の身体活動量の平均値は 200 ~ 220 程度である。A 児の国語の授業 45 分間の身体的活動量の平均値は

261.6 回/分であり、 の時間帯の身体的活動量平均値は 279.4 回/分であった。 の時間帯は、A 児が一人で一斉授業を受けている状態であった。 の時間帯の身体的活動量は 230.7 回/分であり、 と比較すると身体的活動量が低下していることが明らかである。この時間帯は、担任教師がA児の脇にきて国語のテスト(文章読解)と一緒に取り組んでいた。2限の算数の授業時間中の身体的活動量の平均は 261.82 回/分であった。 の時間帯は、身体的活動量が 250.3 回/分と低くなったが、授業に参加できなく、漢字練習をしていた時間帯である。5限の音楽の授業の身体的活動量の平均は 220.80 回/分であった。 の時間帯はA児の介助に当たっている観察者のひざの上に座り、抱きかかえられるような状態で絵本の朗読を聞いていた状態であった。

授業雰囲気尺度で1分ごとにA児の身体的活動量との関連性を分析していった結果、【自由・積極的雰囲気】と【統制的雰囲気】の時に関連性が見出された。【自由・積極的雰囲気】においては、A児の身体的活動量は低下し、【統制的雰囲気】においては、他の子どもが注意されたり、怒られたりしているにもかかわらず落ち着きがなくなりA児の身体的活動量が増加した。

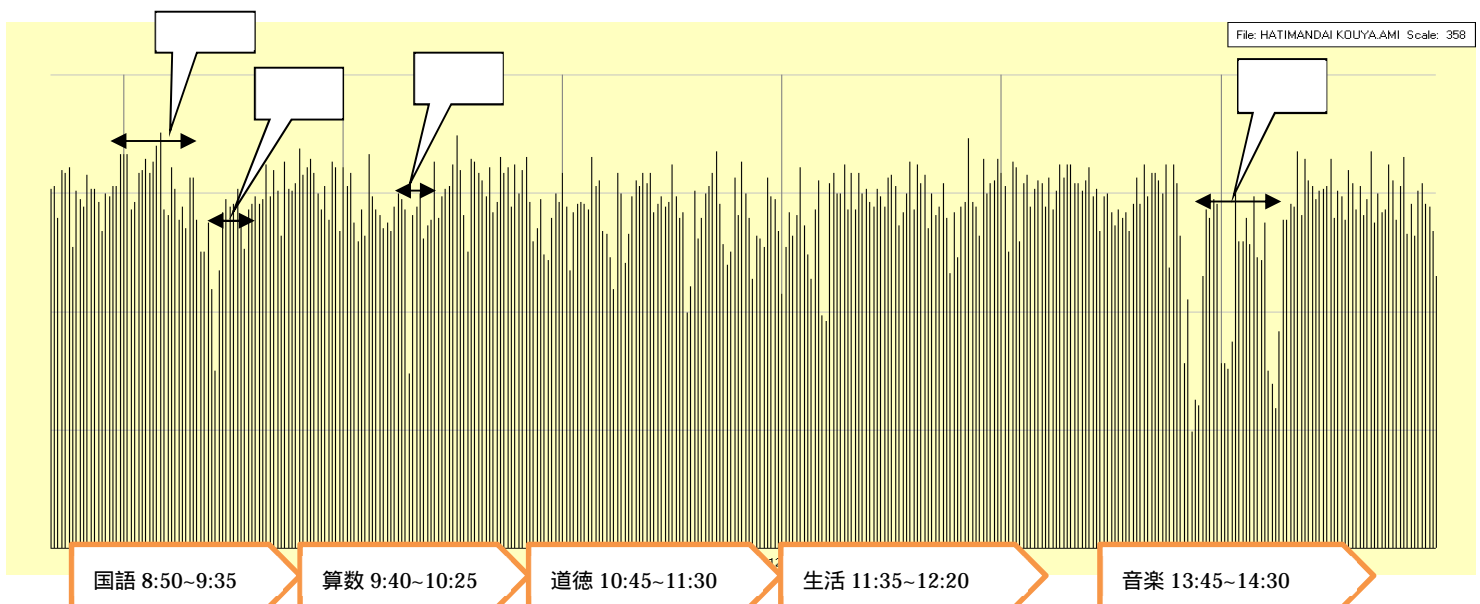


Fig.1 学校での一日における身体的活動量

(3) A S E B A等のアセスメントによる事例研究の実施及び保護者からのインタビューの質的分析から教師に向けた二次障害予防に関する情報発信

対象児は、小学5年男子、通常の学級に在籍している児童である。ADHDの診断が有り、3年生の時より服薬している。病院でソーシャル・スキル・トレーニング(SST)を受けている。主訴は、怒ると手が出るため、怒り出したら別室に行って落ち着かせることが必要で人の気持ちがわからないようにみえる。遅刻が多く、主に学習場面での対応の難しさが有り、担任から相談を受ける。5月に子どもの行動チェックリスト教師版(Child Behavior Checklist Teacher Rating Form:以降TRFと略す)を実施した。TRFの結果では、「不安/抑うつ」「思考の問題」「注意の問題」「非行的行動」「攻撃的行動」が臨床域にある。また、「ひきこもり」「身体的訴え」「社会性の問題」が境界域であり、今後の対応によっては、臨床域にもなりうる可能性がある。「外向尺度」「内向尺度」「総合点」も臨床域を示している(Fig.2)。

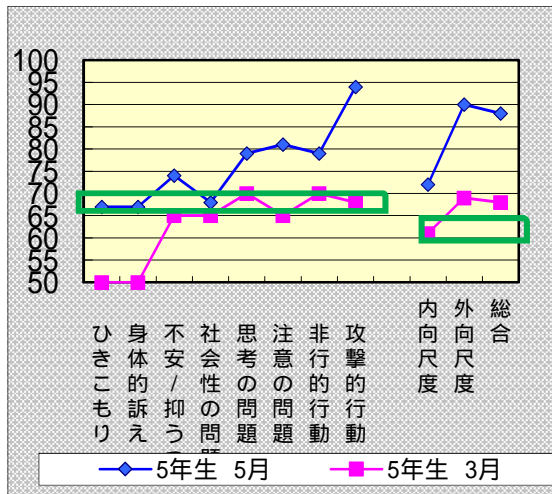


Fig.2 TRF の5月と3月の分析結果

指導経過は省略するが、事例研究を実施し、指導のプロセスにおいて関係する学校にコンサルテーションを行った結果、Fig.2のように翌年の3月には、TRFは、「ひきこもり」「身体的訴え」「不安/抑うつ」「社会性の問題」「注意の問題」「非行的行動」「攻撃的行動」は境界域を示すようになった。「内向尺度」は境界域を示し、「外向尺度」と「総合点」は臨床域ではあるが、行動観察からも明らかに改善が見られた。

以上のような取り組みについて、「2018年度 発達障害のある子どものための学級・学校支援ガイドブック - 二次障害の予防を目指して」「2019年度 発達障害のある子どものための学級・学校支援ガイドブック - 二次障害に陥った生徒の特別支援学校の事例から - 」の2冊にまとめ、発達障害の二次障害予防に関する情報としてホームページから閲覧できるようにした。

URL : <http://web.wakayama-u.ac.jp/~takeda7/report.html>

(4) ベトナムハノイ市の特殊教育センター等の支援体制モデル

ベトナムでは2001年以來インクルーシブ教育(以下、IE)を実施している。2010年に承認された障害者教育法により、一部の国立特殊学校はインクルーシブ教育発達支援センターに移行し、地域の学校等への支援が中心になった。しかし、障害のある子どもの数が増加して、通常の学校に行くことができない多くの障害のある子どものニーズを満たすため、私立特殊教育センターが次々と設立されている。その数はハノイ市だけで200カ所以上ある。ベトナムにおけるインクルーシブ教育を支えている私立特殊教育センターについて、事例研究を通じて、障害ある子どものIEの実施を支援するその実情とその役割について日本の実情と比較し、考察した。

【文献】

- 三浦正江(2002)中学生の学校生活における心理的ストレスに関する研究・風間書房。
- 岡安孝弘・高山巖(1999)中学生用メンタルヘルス・チェックリスト(簡易版)の作成・宮崎大学教育学部教育実践研究指導センター研究紀要,6,73-84。
- 奥野晃正・衛藤隆・星加明德・三池輝久・山縣然太郎・渡辺久子・小枝達也・金生由紀子・沖潤一・武田鉄郎・中村延江・赤松拓・市木美知子・高田憲司(2001)心身症・神経症等の実態把握及び対策に関する研究・厚生科学研究所子ども家庭総合研究事業,310-355。
- 齊藤万比古(2011)発達障害が引き起こす不登校へのケアとサポート・学研。
- 武田鉄郎・武田陽子(2017)特別支援学校(病弱)に在籍している発達障害のある児童生徒の現状・育療,60,6-9。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 杉浦 菜実・武田 鉄郎・尾崎 由美子・増田 伸江	4. 巻 第69集
2. 論文標題 発達障害のある児童生徒への二次障害に関する研究 - 通級指導教室の教師への聞き取りを通じた質的分析 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 和歌山大学教育学部紀要 - 教育科学 -	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19002/AN00257966.69.1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 武田鉄郎	4. 巻 41 (7)
2. 論文標題 学校でのストレスとコーピング	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 小児看護	6. 最初と最後の頁 806-811
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 永井祐也・武田鉄郎	4. 巻 56(1)
2. 論文標題 ムコ多糖症のある幼児児童生徒の保護者が認識した教育的支援と満足の評価	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 特殊教育学研究	6. 最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Tetsuro TAKEDA, Izumi OKUNO, Daisuke KITAOKA	4. 巻 Volume 63, Issue 9AB,
2. 論文標題 CURRENT STATUS AND PROBLEMS OF PSYCHOSOCIAL ADAPTATION OF STUDENTS WITH MILD INTELLECTUAL DISABILITIES AND DEVELOPMENTAL DISABILITIES WHO ARE ENROLLED IN THE MIDDLE SCHOOL AND UPPER SECONDARY SCHOOL OF INTELLECTUAL DISABILITIES SPECIAL SUPPORT SCHOOLS IN JAPAN	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 HNUE JOURNAL OF SCIENCE Educational Sciences	6. 最初と最後の頁 75-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18173/2354-1075.2018-0088	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本 美知子・武田 鉄郎・小山 秀之・宇井 康介	4. 巻 26
2. 論文標題 発達障害のある又はその可能性のある中高生のための感情コントロールプログラム「和歌山どんまいプログラム」の開発とその効果	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 LD研究	6. 最初と最後の頁 327-336
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小畑伸五・武田鉄郎	4. 巻 55(2)
2. 論文標題 知的障害特別支援学校高等部の軽度知的障害教育課程を履修する生徒の情緒及び行動上の課題に関する研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 特殊教育学研究	6. 最初と最後の頁 85-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田絵里子・福田修武・矢野勝・武田鉄郎・永沼理善・寺川剛央	4. 巻 2
2. 論文標題 通常学級における合理的配慮に関連するコーディネーターの役割 - 和歌山大学附属中学校の実践と質問紙調査より -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 和歌山大学教職大学院紀要	6. 最初と最後の頁 121-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤充子・武田鉄郎	4. 巻 2
2. 論文標題 小学校6年間の系統立てた障害理解教育の一提案 - 2つの道徳授業の実践を通して -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 和歌山大学教職大学院紀要	6. 最初と最後の頁 159-168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋爪順子・衣斐哲臣・谷尻治・武田鉄郎	4. 巻 2
2. 論文標題 発達障害のある生徒に対する支援の在り方についての質的研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 和歌山大学教職大学院紀要	6. 最初と最後の頁 169-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上いずみ・武田鉄郎・菅道子・上野智子	4. 巻 4
2. 論文標題 小学校特別支援学級での社会性と情動の学習に視点をあてた自立活動の指導：音楽を取り入れた身体活動のアプローチを用いて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 和歌山大学教職大学院紀要：学校教育実践研究	6. 最初と最後の頁 105-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19002/AA12779311.4.105	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北岡大輔・武田鉄郎	4. 巻 4
2. 論文標題 二次障害を呈する生徒に対応した授業プログラムの構築：関係性を生かした深い学びと自尊感情を高める試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 和歌山大学教職大学院紀要：学校教育実践研究	6. 最初と最後の頁 43-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19002/AA12779311.4.43	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田絵理子・武田鉄郎・林 修	4. 巻 70
2. 論文標題 校内支援体制・外部連携システム整備の取組：教育学部附属三校教育相談コーディネーターの役割を基盤として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 和歌山大学教育学部紀要. 教育科学	6. 最初と最後の頁 135-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19002/AN00257966.70.135	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 グエン チ・カム・フオン、グエン チ・テウ・アイン、武田 鉄郎	4. 巻 70
2. 論文標題 ベトナムにおける障害のある子どものインクルーシブ教育の現状と特殊教育センターの役割：事例研究を通して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 和歌山大学教育学部紀要. 教育科学	6. 最初と最後の頁 77-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19002/AN00257966.70.77	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥野伊寿美・武田鉄郎	4. 巻 70
2. 論文標題 現在は社会参加しているが二次障害を併発した経験のある生徒への子育てに関する母親の心理的変容：母親のインタビュー調査を通して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 和歌山大学教育学部紀要. 教育科学	6. 最初と最後の頁 71-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19002/AN00257966.70.71	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田鉄郎	4. 巻 64
2. 論文標題 発達障害の二次障害に陥った事例を通してストレス対処過程における認知的評価とコーピングの再考 (特集 健康行動科学の病弱教育への適用)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 育療：子供の心身の健康問題を考える学会誌	6. 最初と最後の頁 31-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 深草 瑞世・森山 貴史・土屋 忠之・新平 鎮博	4. 巻 64
2. 論文標題 精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育的ニーズの評価項目の妥当性の検証に関する研究：特別支援学校(病弱)教員を対象とした調査を中心に。	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 育療：子供の心身の健康問題を考える学会誌	6. 最初と最後の頁 54-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 田川君枝・武田鉄郎
2. 発表標題 発達障害や心身症等のある生徒とストレス反応 - 高等学校の生徒とのストレス反応の尺度間の相関関係の比較 - .
3. 学会等名 日本特殊教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田川君枝・武田鉄郎
2. 発表標題 心身症等の医療ニーズのある生徒の認知的評価とストレス反応 - 高等学校の生徒との認知的評価とストレス反応の相関関係の比較 - .
3. 学会等名 日本LD学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 独立行政法人日本学生支援機構	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ジアース教育新社	5. 総ページ数 249
3. 書名 合理的配慮ハンドブック~障害のある学生を支援する教職員のために~	

1. 著者名 武田鉄郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 学研	5. 総ページ数 167
3. 書名 発達障害の子どもの「できる」を増やす提案・交渉型アプローチ - 叱らないけど譲らない支援 -	

1. 著者名 廣瀬由美子・石塚謙二編 武田鉄郎(分担)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 262
3. 書名 特別支援教育(アクティベート教育学 7) 病弱・身体虚弱, 123-129.	

1. 著者名 日本育療学会(著), 山本 昌邦・島 治伸・滝川 国芳(編集) 武田鉄郎(分担)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ジアース教育新社	5. 総ページ数 161
3. 書名 標準「病弱児の教育」テキスト 自立活動の指導, 100-108	

[産業財産権]

[その他]

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	新平 鎮博 (NIIHIRA Shizuhiko) (50171369)	相模原女子大学・学芸学部・教授 (32707)	
研究 分担者	西牧 謙吾 (NISHIMAKI Kengo) (50371711)	国立障害者リハビリテーションセンター(研究所)・病院 (研究所併任)・病院長 (82404)	